

子ども時代の遊びの変化

— 三世代の比較および同一世代での年齢別推移 —

佐藤 匡（聖和学園短期大学）

目的] 子どもは遊びを通していろいろなことを経験し成長・発達して行くとされている。体を動かすこと、友だちとの関わり、遊びにおける創意工夫、伝え合いによる言葉使い、などなどが挙げられよう。近年子どもの遊びが変わってきたとか、遊ばなくなったとかが多く、多くの機会に指摘されている。そして、このことが多発している子どもの様々な問題の原因の一つともされている。そこで、本報告では第一に子どもの遊びの変わりを三世代家族の調査を通して確認すること、第二に近年の若者の子ども時代の遊びの推移について検討することを目的とした。

方法] 三世代の遊びの変化は、本学に在学した一学生の三世代家族の第一世代（祖父母）および第二世代（父母）について聞き取りにより調査した。第三世代（学生本人—女子）の調査は直接記入によった。なお、この家族の子ども時代は第一世代が昭和 5 年頃を中心とした数年間、第二世代は昭和20年代の末から30年代のはじめの数年間、学生本人は昭和50年代の後半の数年間と見做される。一方、子ども時代の遊びの推移は昭和58～59年生まれの本学在学学生60数名について記名方式のアンケートにより調査した。

結果と考察]

1. 三世代の遊びの変化について

三世代の遊びの種類は以下のものであった。

第一世代；＜女＞1) 自分で紙に人形の絵を書いて着せ替え人形を作った。2) お手玉、おはじき、ゴムとびなどをした。3) ままごと遊びの際には草木の葉っぱなどを皿にした。＜男＞1) さとうきびの幹や細い木の枝で刀を作りちゃんばらごっこ。2) 川での魚釣り、山で探険ごっこ。3) 購入した出来合いの玩具はほとんどなく、身の回りにあるもので遊び道具を作った。＜男女＞1) すごろく、福わらいなど。

第二世代；＜女＞1) 手作りの着せ替え人形ごっこ。2) 小枝を箸に木の葉っぱを皿にままごと。＜男＞1) 雪合戦、かまくら作り、自作の竹スキー、みかん箱のそりすべり。2) ちゃんばらごっこ—新聞紙を丸めた刀と風呂敷をマントに—。＜男女＞1) 缶蹴り、馬とび、ゴムとび、なわとび、など。2) 羽根つき、ビー玉、メンコ、など。3) 鬼ごっこ。4) 遊び道具はほとんど自作。

第三世代；＜女のみ＞1) リカちゃん人形の着せ替え。2) ままごとセットを使ったままごと—プリン空きケースも使用—。3) ビニールプールでの水着を着た水泳、水遊び。4) テレビゲーム（ファミコン）、ラジコンなど。5) まんがやテレビを見る。6) 公園での遊具使用、泥んこ遊び。

以上、三世代の遊びの種類の変化は第一、第二と第三との間にはっきりした差が認められる。すなわち、第一および第二では自然や身の回りにあるものを利用した手作りの玩具、つまり遊びの道具を自分で準備するといったこと。また、お手玉、おはじき、ゴムとびなどのような伝承遊びが随分ある。それに対して第三世代では調査対象が女子という制約はあるが大分異なっている。すなわち、遊びの手段や用具に手作りのものがきわめて少ない。ほとんどが商品として売られているものである。このことが、遊びの種類にも影響している。

このような遊びの種類の変化は、遊びの集団や遊びの場所などの変化とも関連していることが窺われた。それらはまた、これまで多々指摘されているように社会・経済、科学技術、文化の変容とも相俟っていると結論できる。

2. 今日の青年の子ども時代の遊びの推移について

1) 遊びの種類：幼稚園時代では39種類の遊びが記載されていた（表1）。順位を別にして記載数で単純に比較するとままごとが一位にあった。その他、上位の10種類には、おにごっこ、砂遊び、なわとび、ぶらんこ、といった外遊びとしてごく一般的なもの、お絵かき（ぬり絵も含む）、人形遊び（リカちゃん人形を含む）、など内遊びとして一般的なものが見られた。小学1～2年での上位10位の遊びの種類は、概して幼稚園時代のそれとあまり変わらなかった。ただ、ごっこ遊び、ボール遊びなどが入り込んでいる。その他、あやとり、だるまさんころんだ、めんこ、はないちもんめ、など古くからの遊びが見られた。また、この時期は、遊びの種類が54と前の時期より大変増えている。小学3～4年では遊びの種類は52であり、数の上では前の時期とほとんど変わらなかったが、その内容は変化していた。また、少数ではあるが伝承遊びがここでも見ら

れた。小学5～6年になると前の時期の遊びを引き摺りながらも、幼稚園時代や小学1～2年のそれらとはまったく異なっていた。大きいボール遊び、T.V.ゲーム、バドミントン、自転車のり、などが上位10位以内に入っており、ほとんどが用具を使った集団でのルールを伴う遊びか、一人遊びが可能なものであった。ここでも伝承遊びがあった。中学になると遊びの様相は一変する。遊びの種類がきわめて少なくなり、それぞれの遊びの実施例も少ないことであった。また、これまで見られなかった友達とおしゃべり、買物、カラオケなどが入っていた。表2に各年齢の遊びの上位10種類をまとめて示した。遊びの種類が年齢が進むにつれて一定の方向で推移していることが捉えられる。すなわち、学齢前の10位以内のものは中学ではまったく含まれなかった。そして、小学時代は低学年から高学年に

向かって中学への過渡的な状況にあるといえる。

ii)遊びの場所、相手など：遊びの場所については年齢による際立った変化は見られなかったが、年齢が進むにつれて家の外から中へ移行する傾向があった。遊びの種類が変わることと関連するものと考えられる。また、調査対象が女子であることも関係しているのかも知れない。遊びの相手では、幼少時代の友人が各年齢を通してもっとも多かった。次いで、低年齢では兄弟姉妹が、年齢が進むにつれてその他の友人の度合いが強くなる傾向にあった。遊びの集団としての人数は、全体では各年齢を通して2～3人および5人前後を中心に広い範囲に分散していたが、学齢期以前は5人以上がきわめて少ないが、小学時代には5人以上が増加して、3～4年生では5人前後より多くなった。その他生活の場、住居、家族構成などについても調査したがとくに指摘できるような結果は得られなかった。

まとめ] 三世代の比較から昭和30年代を境に遊びが変化していること、近年の遊びは年齢が進むにつれて風俗・文化などの影響を強く受けることが推察された。

また、伝承遊びも少ないながら行なわれていた。

表1.遊びの種類とその順位(1) - 5歳前後 -

種 類	順 位	1	2	3	4	5	計
ま ま ご と		10	5	1	3	1	20
おにぎり		4	2	2	5	4	17
お絵かき(ぬりえ)		0	7	2	3	1	13
人形あそび(りかちゃん)		1	2	1	0	5	9
砂あそび		4	1	1	1	0	7
なわとび		2	0	3	2	0	7
ぶらんこ		1	2	0	2	1	6
かけっこ		1	3	1	0	0	5
自転車のり		0	1	4	0	0	5
かくれんぼ		1	1	2	0	0	4
木のぼり		2	1	0	1	0	4
公園で遊ぶ		2	1	0	1	0	4
ボール投げ		0	0	0	2	1	3
ゴムとび		1	2	2	0	0	3
粘土細工		0	0	1	0	1	3
はないちもんめ		0	0	0	0	2	2
折紙		0	0	1	1	0	2
ブロック遊び		0	0	1	1	0	2
ごっこ遊び		1	0	0	1	0	2
トランプ		1	0	1	0	0	2
絵本読み		0	0	2	0	0	2
かるた		0	0	1	1	0	2
鉄棒		2	0	0	0	0	2
水泳(水遊び)		0	0	1	1	0	2
おやさんごっこ		0	1	0	0	0	1
テレビを見る		0	0	0	0	1	1
だるまさんごっこ		0	0	1	0	0	1
トランポリン		0	0	0	0	1	1
そり遊び		0	0	1	0	0	1
虫さがし		0	1	0	0	0	1
とび箱		0	1	0	0	0	1
泥あそび		0	0	0	1	0	1
グリーティング		0	0	0	0	1	1
遊具あそび		0	0	0	0	1	1
けんけんぱ		0	0	0	1	0	1
迷路		0	0	0	0	1	1
けいどろ		0	0	1	0	0	1
うんてい		1	0	0	0	0	1
ゲーム		0	0	0	0	1	1

数字は人数を示す。

表2 遊びの種類の推移(上位10位以内)

遊 び	5 歳	小1~2	小3~4	小5~6	中 学
ままごと	1	4			
おにごっこ	2	1	1	5	
お絵かき	3	5	10		
人形あそび	4	3			
砂あそび	5				
なわとび	5	2	2	3	
ぶらんこ	7				
かけっこ	8				
自転車のり	8	9		8	
かくれんぼ	10	8	10		
木のぼり	10				
公園(外)で	10	7	5		
ゴムとび		6	3	8	
遊具		7		6	
ボールあそび		9	3	1	
ごっこ遊び		9			
鉄棒		10			
一輪車のり			6	7	
トランプ			7	2	3
ゲーム			7		
キックベース			9	10	
伍けり			10		
けいどろ			10	10	
T.V.ゲーム				4	7
サッカー				10	
バドミントン				10	7
おしゃべり					1
買物					2
カラオケ					4
部活					4
バレーボール					6
ゲームセンター					9
まんが、読書					10

表中の数字は各時期のあそびの順位を示す。